

12月3日(金) <<うたごえ祭典 in ひろしま 2021>> “ピースウェーブコンサート第2部” 鳥の歌合唱団に参加する広島合唱団、神戸市役所センター合唱団、埼玉合唱団、および個人参加のメンバーが一堂に会するのは本番当日の練習とリハーサルのみなので、事前に交流紙を通じてお互いに馴染み、親密度が深められれば、よい演奏に繋がるのではないかと思います、1回限りですが交流紙を発行することとしました。原稿をお寄せ頂いた皆様に感謝します。(鳥の歌合唱団事務局)

～ 84人の仲間で心を合わせ、“平和のうたごえ”を響かせよう ～

神戸市役所センター合唱団 練習報告

11月3日、神戸音楽センター会館にて、広島祭典で指揮をされる金井誠先生による「鳥の歌」ほか2曲のレッスンが行われました。

- 先生は、専門的な用語は極力避けて、私たちが何とか歌えるよう、あの手この手で何回もアプローチして下さいました。その軽妙な語り口に引きこまれ、アツという間のレッスン時間で、またレッスンを受けたいと思った団員も多かったことと思います。
- 曲創りと併せて、表現に必要な発声方法も教えて頂き、団としてのパートとしての課題もはっきりし、今後の練習の標になりました。
- また、お話しの中で教えて頂いた「鳥の歌」の長調バージョンは、本当にクリスマスソングっぽく目からウロコでした。
- あと一か月、祭典に向けて、お客様に届く演奏になるよう、練習したいと思います。ご指導ありがとうございました！
- 参加者は神戸市役所センター合唱団員に加え、大阪や京都からの参加者市民団員を含めて23人でした。
- この曲の指揮者やピアニストの先生が来られる前の練習から引き続き残って、練習見学をして下さいました。
- 近畿各県から金井先生のお知り合いの若い声楽家の方達も見学に来られ、さすが金井先生レッスンだなあと感じました。
(ソプラノ樋口 記)



広島合唱団 練習報告

3日(水)、広島でも、金井先生と吉田先生に指導して頂きました。参加者は、広島合唱団員と、個人参加者計32名で、感想をいくつか紹介します。

- 本番指揮の先生のご指導で楽しく練習ができました。各曲の歌詞をどういう心持ちで歌うのか…丁寧にわかりやすくご指導いただけたことがとても嬉しかったです。
- 「モンセラートの星」2、3年前、スペインを訪れた時移動のバスの車窓から、山の上の方、草原の中、街の中で小さな教会があちこちに見えた。歌うたびにその教会が浮かんでいつくしみに包まれた気がします。「鳥の歌」まだまだ、発展途上。本当に歌えるようになって団の持ち歌の1つにしたい。
- 曲に対するイメージ、どういう感覚で歌ったら良いのかわかりやすく、歌いながらイメージしやすかった。声の出し方、方向、高音の出し方など意識して声を出す方法を知ることができてとても勉強になった。
- 金井さんの話は初めて知ることがいっぱいあり面白くグイグイ引き込まれました。難しい歌で逃げ出したい気持ちでしたが、歌えるようになりたいと思いました。

埼玉合唱団 練習報告

11月16日の練習風景です。(出席者42人)
鳥の歌合唱団の3曲の他、来年3月5日に予定している「創立60周年記念演奏会」に演奏する曲も合わせて練習しています。



私は「鳥の歌」を歌うとき、やっと地平線がうっすらと明るくなってきた頃の夜明け前のシーンが思い浮かんできます。まだほとんど暗い中で、水辺にいる鳥が自由に飛ぶときをじっと静かに待っている光景です。パブロ・カザルスの平和への願い、カタルーニャへの望郷の気持ち、それに対する井上さんの想いが強く込められているから、そんな情景が思い浮かぶのかもしれませんが。広島で多くの皆さんと一緒に歌える喜びを感じながら、カタルーニャや世界の紛争地域へも思いを馳せ、私も平和の祈りを込めて歌いたいと思っています。

(アルト 本藤聡子 記)

曲目解説 (プログラム原稿より)

VIROLAI・モンセラートの星

鳥の歌～パブロカザルスへの返歌

スペイン、カタルーニャ州、バルセロナの近郊の岩山にあるモンセラート大聖堂。「黒い聖母マリア」が象徴の教会には地元の人々があつまり、聖歌隊の歌に声を合わせこの歌を歌います。カタルーニャの名曲「鳥の歌」とともにお楽しみください。

「鳥の歌」は元来、カタルーニャの民謡として長い歴史を持っています。伝統あるクリスマス・キャロルとして歌われていたようです。

カタルーニャが生んだ世界的なチェリスト パブロ・カザルスは、内戦を逃れフランスに亡命、フランコの独裁政治に抗し演奏活動をやめていた時期もありました。

カザルスは「鳥の歌」を短調に編曲することによって、望郷の思いや平和への思いを深めたのかもしれませんが。

1971年、94歳のカザルスはニューヨークの国連本部で「鳥の歌」を演奏し、「わたしの故郷カタルーニャの鳥はピース、ピースと鳴くのです」という言葉で世界に平和を訴えました。

日本では、チェリストでうたごえ運動の指導者でもあった井上頼豊氏(井上鑑氏の父)がコンサートのアンコールで必ずこの曲を演奏していました。

いまでは、様々なアーティストにより平和へのメッセージとともに演奏されています。

今回は井上鑑氏による日本語詞と、混声合唱編曲版での演奏です。

この胸の奥深く～We Shall Overcome

世界中で歌い継がれてきた平和の歌の名曲「We Shall Overcome」。井上鑑氏が、原曲の黒人霊歌「I'll overcome someday」が持つ抒情性、祈りの色彩を映し、ブルース・スプリングスティーンによる素晴らしい再録版にインスパイアされ、普遍性のある平和への誓いとして、新たに日本語訳しました。

当日の行動 (スケジュール) 着替・荷物置場＝女性：地下リハーサル室(17:30～22:00)

男性：アステールラザの視聴覚スタジオ(着替)、リハーサル室前のロッカールーム(荷物)

14:30～15:05	練習	: HBG リハーサル室
15:05～15:20	ステージ袖へ移動	: HBG ステージ袖 (合唱団は舞台袖へ移動)
15:20～15:35	ステージリハーサル	: HBG ステージ
15:35～19:35	フリー	: 第1部鑑賞など、食事はアステールの大会議室 AB で可能(17:00～19:00)
19:35	2階に集合	5分で並び舞台袖に移動
～19:45	舞台袖に整列	
19:55～20:09	本番	

参加者	合計	Sop	MS	Alt	Ten	Bass	本番衣装
広島合唱団	: 28	7	4	8	4	5	・・・> [ピンクの上下][白スーツ・赤蝶タイ・黒ズボン]
神戸市役所センター合唱団	: 14	4	1	5	1	3	・・・> [白長袖ブラウスと黒ロングスカート][黒スーツ]
埼玉合唱団	: 35	6	7	7	8	7	・・・> [茄子紺ドレス・黒靴] [黒スーツ・黒蝶タイ]
ゆずり葉(神戸)	: 3		1	2			
個人	: 4						
広島・為汲玲子	: 1						・・・> 各団体のユニホームを基本としますが、
南家孝之	:					1	[女性：白ブラウスと黒ロング][男性：黒スーツ]
吹田・光本章	:					1	でも可能です。
熊本・岩下真也	:					1	
合計:	84	18	13	22	14	17	

重要 マスクはうたごえのステージ要求で
全員**白の不織布マスク着用**をお願いします。